

倶多楽の火山活動解説資料（令和4年6月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-②、図4）

日和山の西側で2日に火山性地震が一時的に増加しましたが、日和山、大湯沼及び地獄谷を含む火口想定域¹⁾に発生する火山性地震は少なく、低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図3）

GNSS連続観測では、2017年頃から継続している基線長の変化は2021年秋以降鈍化しています。

1) 倶多楽火山防災マップ（登別市、2014）で示されている、噴火が発生する可能性のある場所として想定した、日和山周辺から地獄谷周辺にかけての約1800m×約600mの領域を指しています（図4参照）。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年7月分）は令和4年8月8日に発表する予定です。



図1 倶多楽 南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況（414m山監視カメラによる）

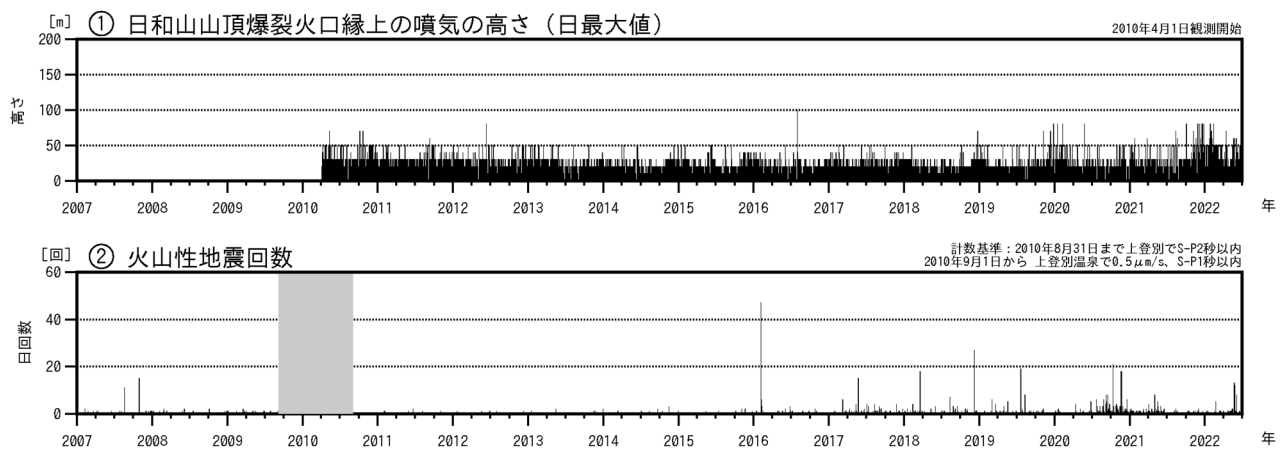


図2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2022年6月）
②の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

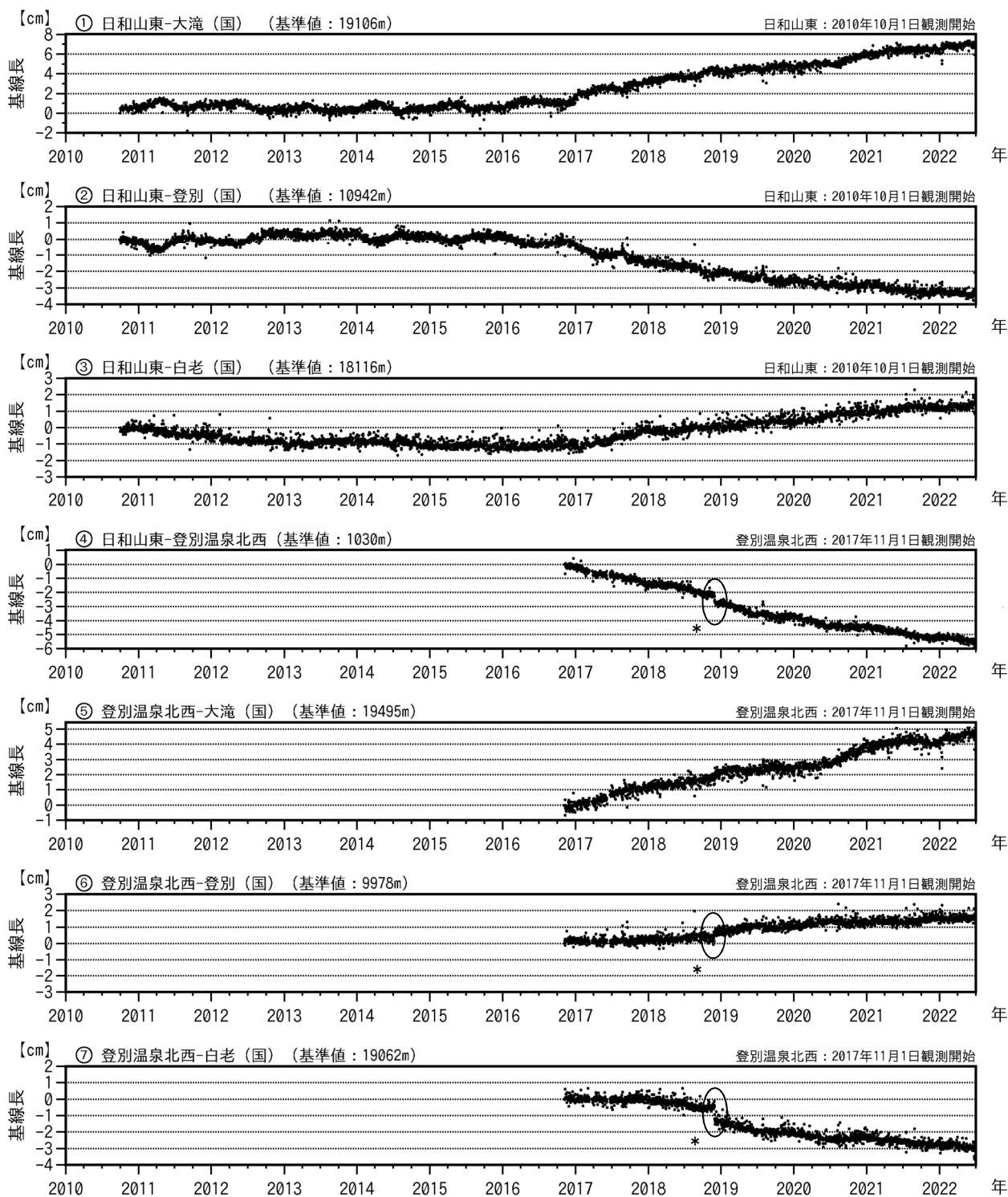


図3 倶多楽 GNSS連続観測による基線長変化 (2010年10月~2022年6月)
 グラフ①~⑦は観測点配置図 (図5) の基線①~⑦に対応しています。
 ④、⑥及び⑦の楕円内の変動 (*) は、登別温泉北西観測点の局所的な動きによるものと考えられます。
 「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」及び「平成30年北海道胆振東部地震」に伴うステップ状の変化を除去しています。



図4 倶多楽 火口想定域（倶多楽噴火警戒レベルリーフレットから引用）
 (https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_111.pdf)

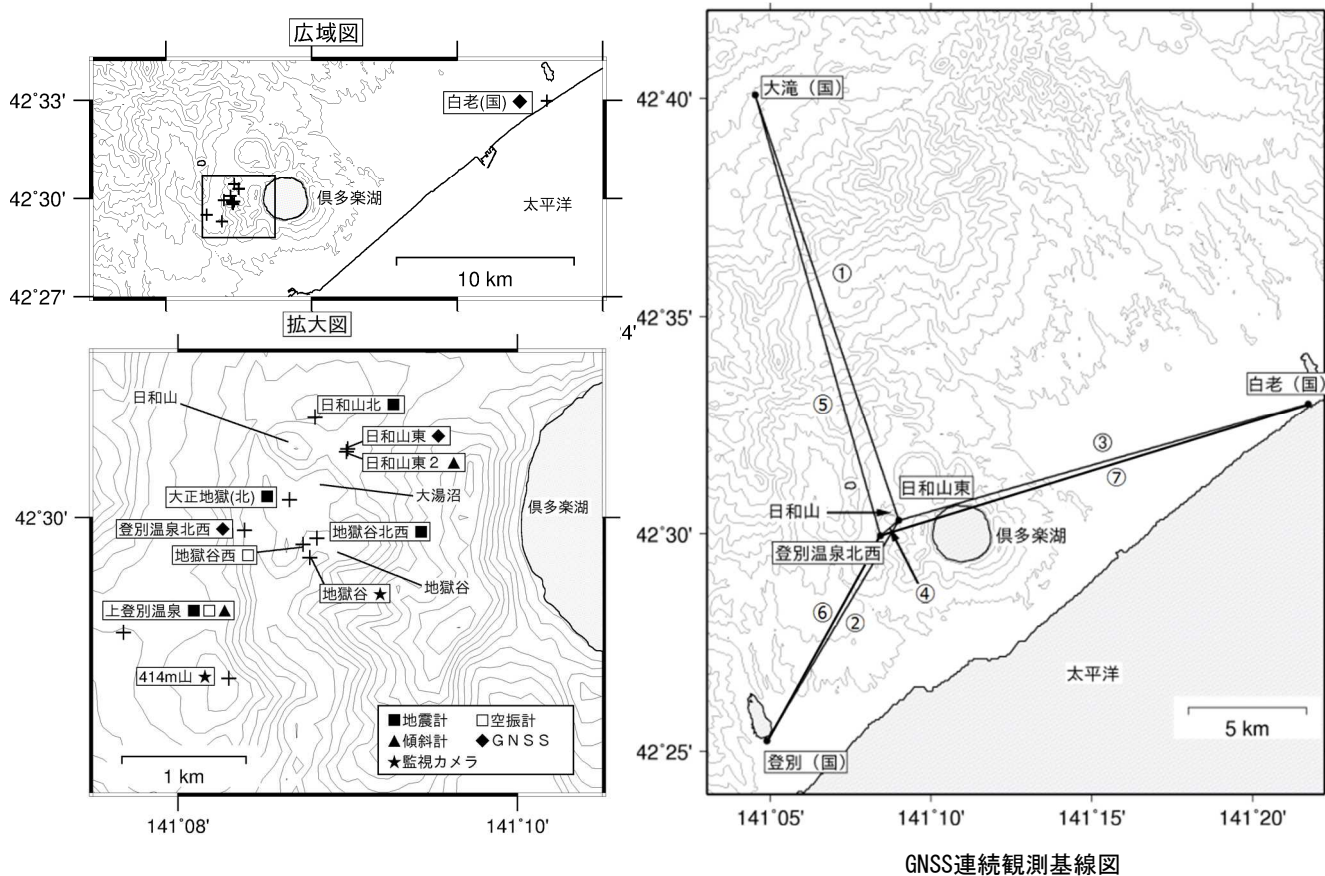


図5 倶多楽 観測点配置図
 広域図内の太枠線は拡大図の範囲を示します。
 +印は観測点の位置を示します。
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
 (国)：国土地理院 (北)：北海道大学